県立学校における在宅教育に関するガイドライン

中学校・高等学校編

令和２年４月14日

奈良県教育委員会

目次

1　県立学校における在宅教育とは・・・・・・・・・・・・P1

2　在宅教育の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2

3　在宅教育の実施例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4

国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4
地理歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
公民　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7
数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9
理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12
音楽　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14
美術　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16
書道　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18
外国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19
家庭　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P21
情報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P22
農業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P23
工業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P25
商業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P26
福祉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P27
特別活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P28
人権教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P29

1　県立学校における在宅教育とは

（1）県立学校における在宅教育

本県における新型コロナウイルス感染症に係る情勢は、令和２年４月８日現在、県内において30例の感染者が確認されているなど、感染者の増加が続いており、引き続き感染拡大への警戒が必要な状況が続いています。また、全国的には、感染者が大幅に増加している地域があり、政府は令和２年４月７日に大阪府・兵庫県を含む７都府県を対象に、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を発令しました。

このような情勢の中、県立学校においては、感染拡大防止に向けた最大限の取組を実施しながら、同時に、県立学校で学ぶ幼児児童生徒（以下、「生徒等」という。）に豊かな学びの機会を確保するための取組が求められているところです。

このため、県教育委員会では、一律の学校休業は行わず、「生徒等が在宅を基本として、必要な支援を受けながら学習に取り組み、自ら学習の状況を評価しながら、学習目標の達成を目指すための教育」（以下、「在宅教育」という。）を期間を定めて実施することとしました。

（2）在宅教育を実施する学校

県立学校には、中学校が１校、高等学校が34校、特別支援学校が10校あり、すべての学校で在宅教育を実施します。

（3）在宅教育を実施する期間

令和２年４月13日(月)から同年５月１日(金)までの期間を、在宅教育の実施期間とします。

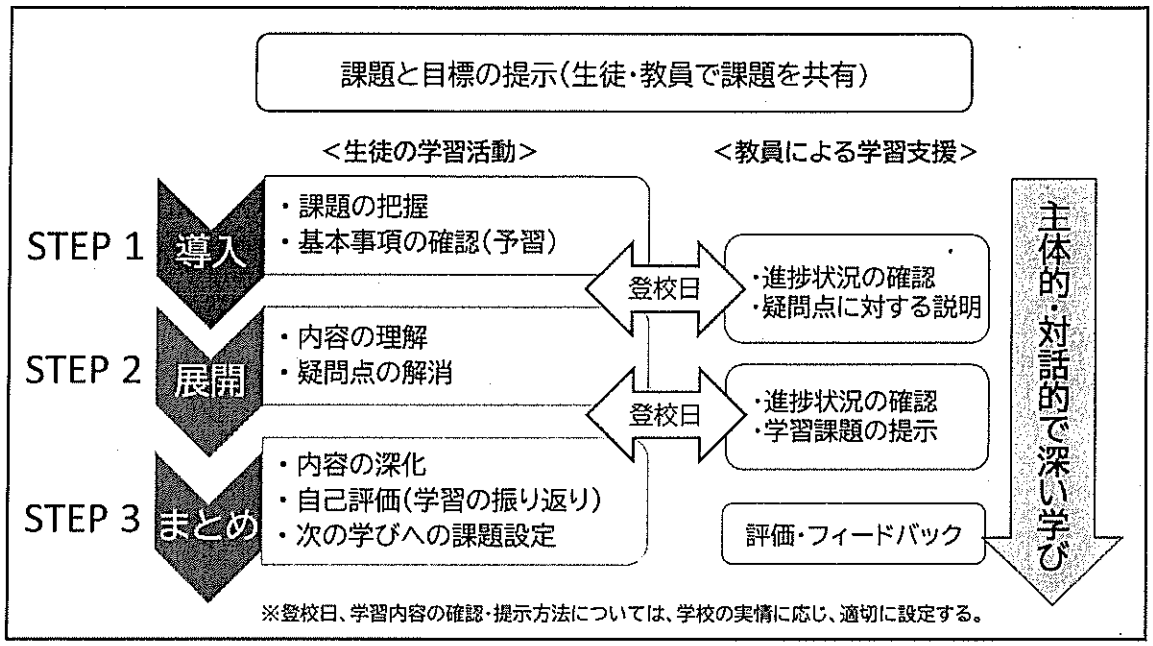
在宅教育は、各教科・科目において単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して段階的な指導計画を定めて実施するため、原則として３週間を単位とする期間を定め実施することとし、感染者の状況などの情勢を踏まえて、適宜、期間の終了・延長を判断することとします。

なお、このガイドラインでは、３週間程度の実施を前提とした在宅教育の実施方法等を示すこととし、今後、実施期間の大幅な延長がなされた場合は、必要に応じて内容を改訂することとします。

（4）在宅教育で指導する内容

在宅教育においては、中学校・高等学校・特別支援学校の各教科だけでなく、自立活動、ホームルーム活動などの特別活動、総合的な学習（探究）の時間や人権教育など、幅広い分野において指導を行います。

2　在宅教育の実際



（１）課題の提示

在宅教育における課題については、その課題に取り組むことで、各教科・科目等の目標を達成させる必要があります。そのためには、教科書の活用を基本として、各教科・科目等の年間指導計画（シラバス）を踏まえて、目標を達成するために、その課題が在宅で行うことが可能かどうかを検討しなければなりません。

また、課題を設定する際には、単なる予習として位置付けるのではなく、取り組んだ内容は、自己評価できるものであり、最終的には、教員が評価を行う必要があります。目標（評価規準、ルーブリック等）を示し、生徒が意欲をもって取り組める課題としてください。

在宅教育の期間が終わり、通常の授業が開始されたときに、生徒が次の単元にスムーズに入ることができるよう工夫する必要があります。

（２）学習活動

「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識しながら、一つの単元における、導入、展開、まとめの流れに沿って、在宅で行うことができる学習活動を設定してください。

３週間の在宅教育を実施する場合、国語の学習を例として挙げますと、１週目（STEP1）は、教科書の本文の音読や語句の意味調べなどの予習。２週目（STEP2）は、予習で出てきた疑問点の解消や、本文の内容を理解

するための課題演習。３週目（STEP3）には、本文の内容をさらに深く理解するために、意見文を書くなどの学習活動が想定されます。

（３）学習支援

学習支援については、登校日を設けて、生徒の進捗状況を確認したり、生徒の疑問点に対して説明したり、生徒が取り組んだレポートなどを添削したりすることが想定されます。また、動画配信を活用した学習なども有効です。

レポート等の課題の提出については、郵送やメールによる方法も可能です。

なお、登校日を設ける際には、分散させて登校させ、人が密集しない環境を確保するなど、最大限の感染拡大防止に努めてください。

（４）自己評価（学習の振り返り）

学習した内容については、目標に照らして自己評価を行い、学習課題の主体的な発見につなげなければいけません。その際、評価した理由を文章表記するよう指導してください。

（５）教員による評価・フィードバック

学習した内容については、教員による評価を行う必要があります。目標の達成度を確認し、目標に達することができなかった生徒に対しては、学習内容の確実な定着を目指し、それぞれに合った学習支援を行ってください。

学習の過程や成果の評価を適切に行うことで、次の課題に取り組む生徒の学習意欲が高まります。

3　在宅教育の実施例

【国語】

（１）課題の提示

課題は学習指導要領に則し、各学校の年間指導計画を踏まえて設定する必要がある。

また、「この課題を行うことにより、どのような力を身に付けることができるのか」、「〇〇という力を付けるために、この課題を行う」ということを、生徒・教員の双方が理解・共有して取り組むことが重要である。

> 例：国語総合『水の東西』
> 「日本」と「西洋」の文化の違いについて、自分の言葉でまとめる。

※この課題（言語活動）を行うことにより、「文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりする」力を身に付けることを目標とする。

（２）学習活動

生徒自身による主体的な学びを基本とする。

①STEP１：導入（予習）

教科書を中心とした基本事項の確認を生徒自身で行う。

自身の疑問点を明確にし、次のSTEPへの動機付けとする。

> 例：（１）教科書本文を音読する。
> （２）漢字・語句の意味を調べる。
> （３）疑問に思ったことをノートに書き留める。

②STEP２：展開（理解）

教科書の脚注問い、章末問題等を中心に、内容の理解・疑問の解消に取り組む。

> 例：（１）指示語の指示内容を確認する。
> （２）教科書の問いについて、自身の考えをノートに記入する。
> （３）対比的表現を抜き出し、ノートに整理する。

③STEP３：まとめ（深化）

まとめ作業を行ったり、実態に応じてワークブックやワークシートを活用したりしながら、内容理解を深める。

また、シート等を活用して学習を振り返り、自己評価を行う。

例：（１）「日本」と「西洋」の文化の違いについて、自分の言葉でまとめる。
（２）ワークブックやワークシートの問いを解く。
（３）振り返りシートに記入し、自己の学びを振り返る。
（４）当初の疑問点を再度自身で考え、ノートにまとめる。

＜評価規準例＞

観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価の内容	・評論に関心を持ち、理解しようとしている。 ・日本と西洋の文化の違いについて、考えを深めている。	・論理的な文章の構成を理解している。 ・二項対立的な評論を読解している。	・語句の意味、表記の仕方などを理解している。
評価方法	・振り返りシートの確認 ・ノート、ワークブック、ワークシートの確認 ・課題の確認	・振り返りシートの確認 ・ノート、ワークブック、ワークシートの確認 ・課題の確認	・振り返りシートの確認 ・ノート、ワークブック、ワークシートの確認 ・課題の確認

【地理歴史】

・新入生が学ぶ科目については、中学校までの学習内容との円滑な接続に配慮し、新たに学ぶ科目への興味・関心を高め、学習意欲を継続させる課題の設定が望ましい。また、在校生が４月から新たに学ぶ科目についても、これまでの学習内容との継続や培った歴史的思考力を活用した、思考できる課題の設定が考えられる。
・具体な課題例に関しては、以下のとおりである。

科目名「世界史Ａ」

（１）課題の提示

取り上げる項目　（学習指導要領解説　地理歴史編Ｐ14～参照）

(1)「世界史へのいざない」

イ　日本列島の中の世界の歴史

日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。

＊学習課題

日本列島を訪れたり、日本列島から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人などを取り上げ、その人物の行動や時代の様子をとらえ、これらの人物を通しての世界との関係や交流の内容をまとめよう。

（２）学習活動

・大項目「世界史へのいざない」では、自然環境と人類の歴史にかかわる主題や、日本の歴史や身近な地域の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる主題を取り上げることとなっている。この学習課題は、学習指導要領解説に掲載の例であるが、その他にも、外来語等を題材にして、日本の言語と世界史の関係を学ぶことや、日本の文化が世界にどのような影響を与えているかを学ぶことも想定される。

・中学校社会科での学習経験を踏まえ、題材の設定を工夫する。

（展開例）　＊世界史Ａ２単位（１週間につき在宅教育２～３時間目安）

「世界史へのいざない」イ　日本列島の中の世界の歴史

１週目　・ワークシートの配布、またはノートのまとめ方を示す。

（生徒の活動）

↓

海外から日本を訪れたり、日本から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人などを取り上げ、その人物について調べ、まとめる（年表や地図などに表す）。

（例：遣唐使、鑑真、フランシスコ＝ザビエル、岩倉使節団等が想定される。）

この際に、学んでいない歴史的用語や内容を整理し、自分でインターネットや副教材等を活用して調べる。理解できなかったことや疑問に思ったことはメール等で質問する。

（＊可能であれば、メール等でワークシートを提出）

２週目　・登校日等を利用し、ワークシートを返却する。代表的な質問に対して回答し、内容のまとめや次の課題を与える。

↓

（＊可能であれば、20分程度の動画を作成し、生徒が調べた人物について、解説を行い、次の課題を提示する。）

次の課題例＝「調べた人物が日本（世界）に与えた影響とは？」
「現在の私たちの生活にも関係する影響とは？」

（生徒の活動）

次の課題について取り組む。

3週目　・メール等で質問への回答を行う。

（生徒の活動）

動画を視聴し学んだことや、登校日に説明を受けたことについて、自分で調べたり、先生に質問をしたりして、ワークシートの再整理を行う。その人物を通しての世界との関係や交流の事跡をまとめ、その歴史的役割や影響を考察する。最後に、その人物について200～300字程度の文章にまとめる。

＊発展的な学び…人だけではなく、ものや技術を取り上げ、伝播や変容を経て現在まで受け継がれていることを考察する。

事後展開（再開後の授業）　グループ内で、各自が調べた歴史上の人物について発表を行う。

この学習の目的　・世界史への興味・関心や学習意欲を高め、異文化への理解を深める。
・中学校社会科での学習を発展させ、世界史的視野を持つ。
・日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付く 。

【公民】

（1）課題の提示

「現代社会」に関して、科目の導入として、次のような学習課題を設定する。

教科書第１編「私たちの生きる社会」における様々なテーマについて、次の学習課題に取り組みなさい。

【課題１】　教科書の内容について、レポートにまとめなさい。また、学習課題に取り組む中で、分からない用語や不明な事柄は、副教材やインターネット等を用いて調べなさい。ただし、インターネットを用いた場合は、出典を明記すること。

教科書を読み、環境問題について、知識を整理し、レポートにまとめる。

【課題２】　【課題１】で扱ったテーマについて、統計や資料等を用いて、理解を深めるとともに、多様な角度から考察し、課題を見つけ、自らの意見をまとめ、レポートを作成しなさい。

副教材やインターネット等から、テーマに関する統計や資料を収集し、それらの情報を読み取り、諸課題について理解を深める。

諸課題を検討するためには、何が問題となっているのか、どのような主張の対立があり、それぞれの主張はどのような関係になっているのかを整理した上で考察を進める。

また、それらの課題が、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など様々な分野に広くかかわる問題であることを理解し、自らの在り方生き方と関連付けて考察する。

【課題３】 教科書の内容について、レポートを作成しなさい。

教科書を読み、資源・エネルギー問題について、知識を整理し、レポートにまとめる。

レポートを作成するに当たっては、課題１、２の作成時に示された注意点や考察方法等を参考にする。

（各課題Ａ４レポート用紙２枚程度）

（２）学習活動

１週目	○　課題１に取り組む。その際、単なる知識の習得に終わらせることなく、この科目全体の学習の動機付けになるよう工夫し、学習を進める。
２週目	○　課題１に関して、理解が十分でなかった点について、担当教員への質問等により理解を進める。また、理解を深めたり、学習の手がかりを得たりするために、配信動画による授業を受講することも考えられる。 ○　課題２に取り組む。統計や資料等については、生徒自身が副教材やインターネット等を用いて適切に収集することが望ましい。単に課題を解決することを求めるのではなく、課題を通して自らの在り方や生き方を考察するとともに、中学校での学習の成果を生かすことができるよう工夫し、学習を進める。収集した資料を活用させるため、教員が、資料から読み取れる内容を例示したプリントを作成し、配布することも考えられる。
３週目	○　課題３に取り組む。課題１、２に取り組んだ際に獲得したスキルや概念を活用して、課題の作成に取り組む。
事後学習	○　生徒が作成したレポートをもとに、発表やディベートの機会を設定する。

【数学】

（1）１週目の実施例

各学校において、教科書の学習する範囲を設定し、以下のように主体的に学習に取り組めるように指示をする。

① 教科書をしっかり読み、定義の確認と、定理や公式等を理解する。その際、公式の導き方や、定理の証明も理解するよう読み進める。

② 例題をノートに解く。その際、解答はすぐに見ないで自分で解いてみる。その後、解答を見て答え合わせをして、理解を深める。

③ 練習問題をノートに解く。知識が定着しているか確認する。解答が用意されているなら答え合わせをする。

①～③を繰り返し、学校が設定した教科書の範囲における全ての例題と練習問題に取り組む。

④ 教科書のページ番号や例題・練習問題の番号等が記載された学習評価表(計画表)を用意し、生徒に事前に配布する。生徒はその表を参考にして、計画的に学習に取り組みつつ、理解することができたかを確認し、どのように学んだかも自己評価できるようにしておく。

⑤ 各学校で採用している補助教材の活用も考えられる。

⑥ わからないところは、必要に応じてメールや電話等により、質問ができるようにすることも考えられる。

（2）２週目の実施例

① 登校日に、練習問題の解答、解説等を配布して、答え合わせをし、その際、生徒のつまずきやすい点等を説明し、支援する。また、つまずきやすい点を解説した授業を動画等で閲覧させ、理解できるようにすることも考えられる。解答を事前に配布している場合、質問等を受け付け、個別に学習の支援を行うことも考えられる。登校日だけでなく、スマートフォンなどの通信機器や電話やメール等を活用して、生徒の質問に対応し、教員との双方向の学習活動も考えられる。

② 練習問題を解いたノートや課題等を確認し、生徒の学習状況を確認する。基礎・基本が確実に定着しているかをみる。必要ならば学習の方向性を指示する。

（3）３週目の実施例

① 第２週目で学習した内容を振り返り、理解をさらに深めていく。理解できたところを再確認し、学習評価表等において自己評価する。

② 生徒の学習状況に応じて、教科書のまとめの問題に取り組み、これまでの学習内容の習熟を図ったり、教科書の発展的な問題に取り組み、これまでの学習内容について理解を一層深めたりする。

③ 教科書の課題学習に取り組み、自分の考えたことをレポート等にまとめることも考えられる。

＊再開後の最初の授業日に、課題テストを実施したり、練習問題等を解いたノート等を提出させたりして、評価する。また、学習評価表も提出させ、評価の対象とする。

【理科】

（１）課題の提示　　（２）学習活動　　（３）学習支援

高等学校　化学基礎

目標：・化学と人間生活とのかかわりについて関心をもち、意欲的に取り組もう。
　　・身近な物質について探究することを通して、科学的に考え、表現しよう。

〈１週目〉

課題１
　教科書の参考ページ（全ページも可）や資料集などを見て、中学校で学んできたこととつながっていると考える内容を３つ選び、どのような点がつながっているかを説明したり、興味をもった点について表現したりしてみよう。

【参考】　教科書ｐ４～ｐ17

（レポート用紙２枚程度）

【例えばこのように深めてみよう】
・高校の教科書には、中学校で学んだ物質と同じものもあるけれど、知らなかった物質も加わっているな。
・この物質は、中学校１年生の〇〇の単元で学んだな。
・中学校では物質の名前は学んだけれど、構造という視点で見てみると面白い。
・中学校で学んだ原子、分子、イオンが、高校ではこんなにたくさん出てくるんだ。

課題２
　粒子の熱運動と温度の関係についてまとめてみよう。

【参考】　教科書ｐ32～ｐ36

（レポート用紙１枚程度）

【例えばこのように深めてみよう】
・教科書ｐ32の実験４をやってみよう。（インキの代わりに使うものを考えて行ってもよい。）その際、どのようになるか予想してから行ってみよう。
・小学校、中学校での学びに、新たに加わった内容を中心にまとめてみよう。

〈2週目〉

○　課題1について、どのような内容について取り上げたか生徒同士で対話する。中学校からのつながりについて深めることにつながる。まとめられたレポートのよい例を共有することも考えられる。

○　課題2について、実験をした生徒から、どのような結果になるか、何を用いたか等対話させる。また、15分程度の実験として、仮説を立てて実験を行い、結果について考察する過程を授業するのもよい。

〈3週目〉

課題3 様々な資料などを活用して、日常生活や社会を支える身近な物質について調べよう。 （レポート用紙2枚程度）

【例えばこのように深めてみよう】

・インターネットで調べてみよう。
　（信頼性のあるサイトかどうかを見極めて出典を書いておこう。Webページそのものを印刷するのではなく、工夫してまとめよう。）
・家でできる中学校の教科書に載っている実験をやってみよう。
・調べてみた実験をやってみたり、実験を考えたりしてみよう。
　（危険でないものにすること。）
　　※　砂糖水と食塩水の味を確かめずに見分ける方法は？
・テレビで見て興味をもった内容について、資料などを活用して調べてみよう。

（理科における課題の提示について）

○基礎科目については、中学校の学習内容とのつながりに気付き、内容を深めたり思考したりできる課題が望ましい。家庭でできる危険を伴わない簡単な実験を行うことも考えられる。

○基礎でない科目については、基礎科目との関連を図りながら、できる限り思考できる内容を提示することが望ましい。問題集等の活用とともに、調べてみたり思考したりして、表現する内容を課題とすることも考えられる。

（4）自己評価

目標に照らして自己評価を行わせる。その際、評価した理由を文章表記させることが大切である。理由を書くことで振り返りが具体化し、自己の成長を認識できたり、次の学びにつなげやすくなったりすると考える。

(1) 化学と人間生活
ア　化学と人間生活とのかかわり
(ア)　人間生活の中の化学
(イ)　化学とその役割
【参考】　教科書ｐ４～ｐ17　（改訂版　化学基礎　　数研出版）

イ　物質の探究
(イ)　熱運動と物質の三態
【参考】　教科書ｐ32～ｐ36　（改訂版　化学基礎　　数研出版）

※イの(ア)は、実験を行うことで、身に付けたり理解することが望ましいため、現在のところ再開後とすることを提案する。

【保健体育】

（１）課題の提示

【体育】

・体つくり運動

スポーツ庁ホームページ「子供の運動あそび応援サイト#休校中におすすめの過ごし方」「マイスポーツメニュー」「手軽にできる！ながらでできる！？Myスポーツメニュー～みんなも一緒に動こうよ～」を実施する。
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200122-spt_sseisaku01-000002649_1.pdf

・ダンス

スポーツ庁ホームページ「女性スポーツ促進キャンペーンオリジナルダンス「Like a Parade」」を実施する。

・体育理論

教科書「現代高等保健体育」体育編「運動・スポーツの学び方」の単元「４　技能と体力」「５　体力トレーニング」を学習する。

【保健】

文部科学省ホームページ「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」参考資料・情報提供「中学校保健教育指導参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」追補版「感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～」」を資料として学習する。
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/__icsFiles/afieldfile/2020/20200317-mxt_kensyoku-02.pdf

（2）学習活動

【体育】

〈1週目〉

・体つくり運動

スポーツ庁ホームページ「子供の運動あそび応援サイト#休校中におすすめの過ごし方」「マイスポーツメニュー」「手軽にできる！ながらでできる！？Myスポーツメニュー～みんなも一緒に動こうよ～」の全種目を実施する。

・ダンス

スポーツ庁ホームページ「女性スポーツ促進キャンペーンオリジナルダンス「Like a Parade」」を実施してみる。

・体育理論

教科書「現代高等保健体育」体育編「運動・スポーツの学び方」の単元「4 技能と体力」「5 体力トレーニング」を読む。

〈2週目〉

・体つくり運動

各自の体力について課題を考え、スポーツ庁ホームページ「子供の運動あそび応援サイト#休校中におすすめの過ごし方」「マイスポーツメニュー」「手軽にできる！ながらでできる！？Myスポーツメニュー～みんなも一緒に動こうよ～」から各自の課題に合った運動を組み合わせて実施する。

・ダンス

スポーツ庁ホームページ「女性スポーツ促進キャンペーンオリジナルダンス「Like a Parade」」の一部分に「手洗い」をイメージした動きを創作し、振り付けを考えて実施する。

・体育理論

各自が実施した運動（体つくり運動・ダンス）が教科書「現代高等保健体育」体育編「運動・スポーツの学び方」の単元「4 技能と体力」「5 体力トレーニング」の内容の『どのような体力にあたるのか』や『練習とトレーニングの効果をあげるための5原則を意識して行うことができたか』などを考える。

〈3週目〉

・体つくり運動

各自の体力について課題について、スポーツ庁ホームページ「子供の運動あそび応援サイト#休校中におすすめの過ごし方」「マイスポーツメニュー」「手軽にできる！ながらでできる！？Myスポーツメニュー～みんなも一緒に動こうよ～」などを参考に各自の運動計画を作成し実践する。

・ダンス

スポーツ庁ホームページ「女性スポーツ促進キャンペーンオリジナルダンス「Like a Parade」」の一部分に「手洗い」をイメージした動きを創作し、振り付けを完成させる。

・体育理論

各自が実践した運動（体つくり運動・ダンス）と、教科書「現代高等保健体育」体育編「運動・スポーツの学び方」の単元「４ 技能と体力」「５ 体力トレーニング」の内容を踏まえて、自分にあった健康づくりのためのエクササイズを考える。

【保健】

〈１週目〉

文部科学省ホームページ「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」参考資料・情報提供「中学校保健教育指導参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」追補版「感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～」」を読む。

〈２週目〉

文部科学省ホームページ「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」参考資料・情報提供「中学校保健教育指導参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」追補版「感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～」」を読み、感染から身を守るための行動ができているか考える。

〈３週目〉

文部科学省ホームページ「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」参考資料・情報提供「中学校保健教育指導参考資料「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」追補版「感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～」」を参考に、今後自身がとらなければならない行動について２００字程度でまとめる。

【音楽】

【学習指導要領との関連】

高等学校学習指導要領（平成21年３月告示）

第７節　第２款　各科目　第１ 音楽Ⅰ　２　内容

Ａ表現(１)歌唱

ア　曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。

エ　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

※各学校において、関連のある題材内で、「校歌」を教科書の教材に替えて指導することが考えられる。

（１）１週目の実施例

●課題の提示

・「校歌」はどのような場面で歌われているか、なぜ、歌われているかについて考える。

・「校歌」について、歌詞の意味、歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景など、調べたことをノート等にまとめて提出する。

○学習活動

・学校のＨＰ等を利用し、学校の歴史や校歌について理解する。

・歌詞を音読する。

・「校歌」の歌詞をノート等に写し、歌詞の意味や、歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景などについて調べたことをノート等にまとめる。

（２）２週目の実施例

★学習支援

音源作成

・生徒が旋律を捉えるための音源を作成し、著作権に留意の上、聴取できるようにする。

登校日

・提出物の確認により指導を行う。

・在宅時に音源を聴取できない生徒や在宅時の練習に際して課題を抱える生徒に対して、音楽室で範唱を聴かせるなど支援を行う。

・校歌の楽譜と小節線等を記入済み（その他、学習を通して気付いたこと等を記入する欄を設ける）の五線譜をワークシートとして配布する。

●課題の提示

・ワークシートに「校歌」の楽譜を写譜する。

歌詞、用語や記号とその読み方や意味について調べて記入し、提出する。

・音源を活用し、旋律を捉え、楽譜を見て歌えるようにする。

○学習活動

・写譜を通して記譜について理解する。

・鍵盤楽器や吹奏楽器（リコーダー等）で音程を確認しながら、楽譜を見て歌えるように練習する。

・自己の歌唱を録音して客観的に聴く。（可能な場合）

（３）３週目の実施例

★学習支援

登校日

・提出物の確認により指導を行う。

・在宅時に音源を聴取できない生徒や在宅時の練習に際して課題を抱える生徒に対して、音楽室で範唱を聴かせるなど支援を行う。

●課題提示

・曲想を歌詞の内容や背景、音楽の構造とかかわらせて理解し、「校歌」にふさわしい表現について考え、ワークシートに書き込み、提出する。

※音楽を形づくっている要素の働きについて生徒の思考を促すために、「なぜ、ここでこの強弱記号が付されているのか」「なぜ、ここでこの休符が用いられているのか」など、ワークシートに発問を加えることも考えられる。

・「校歌」にふさわしい表現を創意工夫して歌えるようにする。
・「校歌」について、ノート等に紹介文を書いて提出する。

○学習活動

・歌詞に込められた思いや旋律の特徴を捉え、具体的にどのような歌い方の工夫が考えられるか、楽譜に書き込む。また、なぜそう考えたのか、理由についても書き込む。
・考えたことを生かして「校歌」にふさわしい表現ができるように練習する。(曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを含む)
・旋律の特徴や背景などを理由に挙げ、なぜ「校歌」が歌われるのかについて、自分の考えをまとめ、「校歌」の紹介文を書く。

評価の観点

1　提出物による評価の観点

・曲想と歌詞の内容や楽曲が作曲された背景とのかかわりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
・楽曲を特徴付けている音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。

2　技能を見取ることが可能な場合の評価の観点

・曲想と歌詞の内容や楽曲が作曲された背景とのかかわりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
・楽曲を特徴付けている音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。
・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、発音、読譜などの技能を身に付け、創造的に表している。

【美術】

（1）課題の提示

■「A表現（2）デザイン」及び「B鑑賞」の課題例

題材名：「生活の中にあるデザイン」
形　式：スケッチ、レポート、フライヤーのアイデアスケッチ
　　フライヤー清書、ワークシート　　※全てA4サイズ
内　容：在宅期間を利用して、家庭内にある日用品のデザインに着目し、使用する人の心情や、使用する場に求められる機能と美しさの調和を捉え、材料の性質や構造などを総合的に考え表現する能力を育成する。

（2）学習活動

・身近な造形物の中から、自分のお気に入りのデザインを見つける。
・見つけた造形物のスケッチを行う。

・実際に使用されている具体的な場面について考察する。（使用頻度、使い心地など）
・色彩や形状、素材を元に造形的な美しさについて考察する。
・使用に際しての機能性や利便性について考察する。
・以上の考察をふまえて、自分が気に入っている点について記述する。
・お気に入りのデザインの情報を分かりやすく相手に伝えるフライヤーを制作する。
※可能であれば、造形物の名称や製造元、作者などの情報について調査する。

＜指導計画＞

週	活動内容
1	■教員【課題の提示・説明】 ・課題を提示する。（スケッチ、レポート、アイデアスケッチの制作） ・課題の内容や計画についての説明を行う。 ■生徒【課題の把握・取組】 ・課題を把握し、主体的に創意工夫した取組を行う。
2	■教員【課題の回収・解説】 ・課題の意図やねらいについての説明を行う。 【取組例の提示】 ・提出されたスケッチを提示、紹介する。 【課題の提示】 ・課題を提示する。（フライヤーの制作） 【課題の指導】 ・未提出生徒への状況確認と個別指導 ・フライヤー制作に向けた個別指導（アイデアスケッチ） ■生徒【課題の把握】 ・フライヤー制作について把握する。 ・フライヤーを制作する。
3	■教員【課題の回収・掲示】 ・提出された作品を掲示する。 ■生徒【作品の鑑賞・まとめ】 ・提出された作品を鑑賞し、ワークシートに記入する。 ■教員【題材のまとめ】 ・生活の中で使うものに関するデザインの学習としてのまとめを行う。 ■教員【学習評価】 ・提出物をもとに評価を行う。

【書道】

（１）課題の提示

【展開例１】
〈１週目　課題の提示〉
○「書道Ⅰ」の教科書に掲載している初唐の三大家（歐陽詢、虞世南、褚遂良）のうち自由に一人を選ぶ。
○古典作品の字形や書き方の特徴を各自で分析し、レポートにまとめる。
〈２週目　発展課題〉
○まとめたレポートを学校に提出する。
○次に、指導者が各古典作品を臨書している動画を視聴し、その書き方を参考にしながら、各自毛筆を用いて半紙に６文字ずつ臨書する。
〈３週目　探究課題〉
○臨書した作品を学校に提出する。
○自分の「氏名」を古典作品の書風に倣って、毛筆を用いて半紙に書く。
（事後の展開）同じ人物を選んだ生徒同士がレポートをもとにグループワークを行い、各古典作品の特徴についてプレゼンテーションを行う。

【展開例２】
〈１週目　課題の提示〉
○課題として示された複数の仮名の古筆の中から、自由に作品を選ぶ。
○その課題について、「書道Ⅱ」の教科書に掲載している「変体仮名」の一覧表を参考にして読み下し、書かれている内容や意味を調べてレポートにまとめる。
〈２週目　発展課題〉
○まとめたレポートを学校に提出する。
○次に、指導者が各古筆を臨書している動画を視聴し、その書き方を参考にしながら、各自仮名筆を用いて半紙に原寸大で臨書する。
〈３週目　探究課題〉
○臨書した作品を学校に提出する。
○課題として示された和歌一首を、各自が選んだ書風に倣って、半紙に行書きする。
（事後の展開）同じ古筆を選んだ生徒同士が、倣書した作品を持ち寄り、相互に鑑賞し、批評し合う機会をもつ。

（２）学習活動
自宅でレポートや作品等を作成し、登校時に提出する。

（３）学習支援
参考図書や文献などを紹介し、レポートの材料を提供したり、助言をしたりする。

（4）自己評価（学習の振り返り）

＜自己評価の例＞

	十分満足できる(A)	満足できる(B)	十分でない(C)
主体的に取り組む態度	自ら進んで課題に取り組み、達成感を感じることができた。	しっかり丁寧に課題に取り組むことができた。	意欲的に取り組むことができなかった。
知識・技能	古典作品の特徴や美しさに気づき、それを作品やレポートに反映することができた。	古典作品の特徴を分析し、作品やレポートにまとめることができた。	古典作品の特徴や美しさを分析したり理解したりすることが難しかった。
思考・判断・表現	古典作品の特徴を分析的に捉えて上手く表現できた。	古典作品の特徴を再現しようと努力した。	古典作品の特徴を再現できなかった。

（5）教員による評価・フィードバック

提出されたレポートや作品などを評価するとともに、事後に機会を設けて発表させる。例えば、同じテーマを選んだ生徒同士がレポートをもとにグループワークを行い、プレゼンテーションを行ったり、相互に鑑賞したり批評したりして、深い学びにつなげる。

【外国語】

（1）課題の提示

1　課題の題材を単元やページなどで具体的に示す。

※課題プリント等も家庭学習において効果的であるが、その際は、教科書を活用できる課題となるよう工夫すること。

2　CAN－DOリストを基に、学習の目標を示す。

3　学習活動を示す。

（2）学習活動

〈1週目〉

提示例：

1　教材

コミュニケーション英語Ⅰ　「(テキスト名)」　Lesson 1　p.○○~p.○○

2　目標

（1）情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
（2）聞き手に伝わるように音読することができる。
3　学習活動
（1）教材（指定された範囲）を読み、書かれている情報や考えなどを理解する。
（必要に応じて、日本語訳を参考にしてもよい。）
（2）本文において、特に重要だと考えられるキーセンテンスまたはキーワードを抜き出す。
（3）気になる箇所（一文または語句）を抜き出し、何が気になるのかについて、簡潔に英語でまとめる。
（4）聞き手に内容が伝わるように音読を行う。その際、リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意して行うこと。
（5）単語の発音やリズム、イントネーションなど、明確でない箇所をチェックしておく。

〈2週目〉
提示例：

1　教材
コミュニケーション英語Ⅰ　「(テキスト名)」　Lesson 1　p.○○~p.○○
2　目標
（1）情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
（2）ターゲットとなる文法事項を理解し、適切に活用できる。
（3）聞き手に伝わるように音読することができる。
3　学習活動
（1）登校指導におけるアドバイスを参考に、キーセンテンスまたはキーワードを整理し、それらを基に、本文を要約する。
（2）ターゲットとなる文法事項について理解し、それらの表現が実際にどのようなコミュニケーションの場面で用いられるかについて考え、簡潔な会話文を作成する。
（3）聞き手に内容が伝わるように音読を行う。その際、リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意して行うこと。
（4）単語の発音やリズム、イントネーションなど、明確でない箇所をチェックしておく。

〈3週目〉
提示例：

1　教材
コミュニケーション英語Ⅰ　「(テキスト名)」　Lesson 1　p.○○~p.○○

2　目標

（1）情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。

（2）読んだことや学んだことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。

（3）聞き手に伝わるように音読することができる。

3　学習活動

（1）登校指導におけるアドバイスを参考に要約文を修正し、要約文を暗唱するなど、スピーチを行えるように準備する。

（2）教材を読んだり他の生徒と意見交換をしたりして学んだことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。その際、家族への聞き取りやインターネットによる情報収集など、可能な限り、学んだテーマに関連する情報を収集すること。

（3）聞き手に内容が伝わるように音読を行う。その際、リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意して行うこと。

（4）単語の発音やリズム、イントネーションなど、明確でない箇所をチェックしておく。

【家庭】

（1）課題の提示

家庭基礎

目標：栄養的にバランスのとれた家族の食事の献立を作成し、目的に応じた調理を行う。

1週目	〔課題〕 現代の食生活の傾向と問題点を踏まえ、各ライフステージ別の栄養の特徴についてレポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕 ・各ライフステージ別の特徴について理解できたか。 ・自分や家族の食事を管理することの重要性を理解できたか。
2週目	〔課題〕 日常に用いられている主な食品の栄養的特質や調理上の性質を踏まえ、家族の嗜好を聞き取った上で、家族の健康を保持し、栄養バランスを考えた献立や調理計画をレポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕

	・５大栄養素の特徴とそれを多く含んでいる食品について理解できたか。 ・食品摂取基準や食品群別摂取量の目安について理解できたか。 ・家族構成に合わせた献立作成や調理計画を立てることができたか。
３週目	〔課題〕 食品の調理上の性質を踏まえ、安全や衛生に配慮した上で、２週目で作成した家族の日常食を調理し、レポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕 ・調理法の特徴を理解できたか。 ・調理器具の特徴や取り扱いについて理解できたか。 ・料理の盛り付けや配膳の仕方、食事のマナーについて理解できたか。

（２）学習活動

自宅でレポートを作成し、登校時等に提出する。

（３）学習支援

教科書の表やグラフの読み取り方等について助言する。

（４）自己評価（学習の振り返り）

（１）の表中にある〔課題の作成に向けてのポイント〕を基準として、「①十分満足できる」「②満足できる」「③十分でない」で評価する。

（５）教員による評価・フィードバック

【教員による評価】（１）の表中にある〔課題の作成に向けてのポイント〕を基準として、「①十分満足できる」「②満足できる」「③十分でない」で評価する。

【フィードバック】レポートを提出させ、自己評価で「十分でない」と評価した者について、登校指導等で支援する。

【情報】

（１）課題の提示

【課題例】「社会と情報」２単位

目標：情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

・学習指導要領の内容：（３）情報社会の課題と情報モラル
・単元：情報化が社会に及ぼす影響と課題
・単元目標：望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について生徒が主体的に考え、自分の意見をまとめ、発表の準備ができるようにする。
・教科書例：最新社会と情報［実教出版］p.6～p.11

（２）学習活動

1週目　○自己学習
・教科書をよく読み、「情報」がどんなものであるかをノートにまとめる。
・情報化の光と影の部分においては、光の部分と影の部分の身近な具体例を教科書を参考にノートにまとめる。
・情報の特徴の３つの性質をノートにまとめる。
・分からない用語や疑問点についてはノートにまとめ、インターネット等を活用して調べる。疑問点等については、メール等により質問する。

2週目　○登校日等を利用した学習
・自己学習時に分からなかった内容について、用語等について解説された補足プリント等による確認を行う。また、登校時に質問するなどして、ノートを仕上げる。
・確認テストに向けた対策として、確認プリント等で学習する。
・発展課題として、生活の中で使用されている情報について、情報を伝えたい相手の気持ちを考えて、情報をやりとりする時の注意点とその理由を考えてレポートにまとめる。

3週目　○知識や技術の活用
・確認テストを実施し、自己採点する。分からなかったところなどについてはノートにまとめ、教科書やプリント、インターネット等を活用して復習する。
・発展課題のレポートを基に、これまで学習した内容や自分の考えを２００字程度の文章にまとめる。

事後展開（再開後の授業）　２００字程度にまとめた文章に基づいて、発表し合う。

【農業】

（１）課題の提示

農業科各科目の学習は座学と実習により構成される。座学の内容と実習の内容は連動して考える必要がある。また、季節性も大きく影響するため、実習計画が変更できないことも多い。そのことも踏まえ、在宅での学習課題を提示する場合もその点に配慮した計画が必要である。

例示科目：農業と環境（実教出版）

単 位 数：２単位
必要教材：教科書、ノート、報告用紙（レポート用紙）、トウモロコシの種子
学習範囲：第１章　農業と環境を学ぶ（教科書ｐ６～ｐ11）
　　第４章　栽培と飼育のプロジェクト
　　３　トウモロコシ（教科書ｐ116～ｐ123）

（２）学習活動と学習支援

週	生徒の学習活動	教員の学習支援	備考
１週目	①教科書（学習範囲）を読む。 ②初めて知った用語にアンダーライン等を入れる。 ③報告用紙を記入し、自己評価をする。	○トウモロコシのたねまきを行い、その後の栽培管理を継続する。	自宅学習
２週目	①トウモロコシの種子を観察し、スケッチする。 ②トウモロコシの発芽の状態を観察し、スケッチする。 ③気づいたことを報告用紙に記入する。 ④１週目で読んだ教科書の部分を再度読み復習をする。 ⑤意味の分からない用語について自分で調べ、分かったことをノートに記入する。	○トウモロコシの成長の様子や栽培管理の様子を写真で記録し、生徒に提示する。 ○１週目で自宅学習した部分について、次の登校日に小テストをすることを予告する。 ○質問に対応する。	登校日 20分程度の短縮授業（実習） 自宅学習
３週目	①トウモロコシの成長の様子を観察し、スケッチする。 ②発芽率を計算する。 ③気付いたことを報告用紙に記入する。 ④小テストに取り組み、自己採点をする。 ⑤３週間の学習で学んだ中で最も印象に残っていることを報告用紙に記入する。	○成長の様子や栽培管理の様子を写真で記録し、生徒に提示する。 ○質問に対応する。 ○小テストを配布する。	登校日 20分程度の短縮授業（実習） 自宅学習

【工業】

（1）課題の提示

【課題例】「機械工作」２単位

目標：機械工作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

・学習指導要領の内容：（2）機械材料　ア　材料の加工性と活用

・単元：機械材料とその加工性（範囲：機械材料の性質と種類）

・単元目標：機械材料の特性や機械材料の強さや硬さなどの機械的性質について理解し、実際に活用できるようにする。

（2）学習活動

1週目　○自己学習

・教科書をよく読み、教科書に出てくる機械材料に望まれる性質や主な機械材料についてノートにまとめる。

・機械材料の強さや硬さなどの機械的性質についてまとめる。

・分からない用語や疑問点についてはノートにまとめ、インターネット等を活用して調べる。疑問点等については、メール等により質問する。

2週目　○登校日等を利用した学習

・自己学習時に分からなかった内容について、用語等について解説された補足プリント等による確認を行う。また、登校時に質問するなどして、ノートを仕上げる。

・確認テストに向けた対策として、確認プリント等で学習する。

・発展課題として、生活の中で使用されている機械材料について分類ごとに調査し、使用されている理由を考えてレポートにまとめる。

3週目　○知識や技術の活用

・確認テストを実施し、自己採点する。分からなかったところなどについてはノートにまとめ、教科書やプリント、インターネット等を活用して復習する。

・発展課題のレポートを基に、設定された実際の場面において、これまで学習した各機械材料の分類における特性や機械的性質を考慮した最適な材料を選択するワークシートに取り組む。

事後展開（再開後の授業）　完成したワークシートについて、発表する。

（3）学習支援

・引張試験等、実習などと関連付けて具体的な理解につながる部分については、実習などの時間に授業を行う等、生徒にとって効果的な学習となるようにする。

【商業】

（１）課題の提示

○教　　材　　教科書　実教出版「ビジネス基礎 新訂版」
　　副教材　実教出版「ビジネス基礎問題集 新訂版」

○学習内容　　（１）商業の学習とビジネス
　　ア　商業を学ぶ重要性と学び方
　　イ　ビジネスの役割
　　ウ　ビジネスの動向・課題

（２）学習活動と学習支援

週	学習活動（生徒）	学習支援（教員）	備考
1		・学習内容を提示し、学習目標を簡潔に伝える。 ・学習方法を伝える。	学校で直接又はメール等で伝える。
	・教科書p６～p23を読む。 ・分からない用語をノートに書き、可能な範囲で調べ、まとめる。		在宅学習
2	・ノートをもとに質問する。	・ノートを確認し、質問に答える。 ・次の学習方法を伝える。	登校指導
	・副教材p２～p11の問題演習に取り組む。 ・自己採点を行う。		在宅学習
3		・副教材を確認し、解説する。 ・次の学習方法を伝える。	登校指導
	・「自己の進路について」「企業が行う活動について」をテーマにレポート（200字）を作成する。		在宅学習

【福祉】

（１）課題の提示

介護福祉基礎

目標：介護を必要とする人の生活を踏まえ、介護福祉サービスのニーズや課題についてまとめ、介護従事者の役割と機能を考える。

１週目	〔課題〕 介護を取り巻く状況と、介護を必要とする人の生活状況についてまとめ、安全かつ自立に向けた生活環境について考え、レポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕 ・社会情勢を踏まえ、介護を取り巻く具体的な状況（例えば、少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化等）を想定し、その状況における課題を提起できたか。 ・介護を必要とする人の生活状況について、個別性や生活の多様性の視点を踏まえた上で、具体的な生活環境の整え方を考えられたか。
２週目	〔課題〕 介護の意義、介護従事者の役割と機能、倫理についてレポートにまとめる。また、職業人として介護福祉士が求められる高い専門性について、身近な人と意見交換した上で、レポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕 ・介護従事者としての基本姿勢、多様な価値観の尊重、プライバシー保護、人権尊重、責任と任務等について、具体的な例を示しその姿勢についてまとめることができたか。 ・介護従事者と比較して、介護福祉士として求められる専門性について、具体的に示すことができたか。
３週目	〔課題〕 教科書等の事例を示し、その事例に対して、１週目及び２週目の学びを踏まえ、人間としての尊厳が保たれたその人らしい生活を取り戻すために、介護従事者もしくは介護福祉士としてどのような働きかけがあるか考え、レポートにまとめる。 〔課題の作成に向けてのポイント〕 ・事例に対して、介護を必要とする人が求める尊厳を支える介護について、具体的に示すことができたか。

（２）学習活動

自宅でレポートを作成し、登校時等に提出する。

（３）学習支援

他の福祉科目の教科書等を参考にし、具体的な事例を提示し、助言する。

（４）自己評価（学習の振り返り）

（１）の表中にある〔課題の作成に向けてのポイント〕を基準として、「①十分満足できる」「②満足できる」「③十分でない」で評価する。

（５）教員による評価・フィードバック

【教員による評価】（１）の表中にある〔課題の作成に向けてのポイント〕を基準として、「①十分満足できる」「②満足できる」「③十分でない」で評価する。

【フィードバック】レポートを提出させ、自己評価で「十分でない」評価を付けた者について、登校指導等で支援する。

【特別活動】

特別活動（ホームルーム活動）　単位数：１

例１

教材：「新たなるステージ」～なかまとともに～

※各校既存の「個人面談資料」等も活用可

１週目：本教材を記入

２週目：担任・副担任で個人面談

目標：①生徒理解

②生徒・担任間の人間関係つくり

３週目：「人間関係形成」について深く考えさせる作文

例）「新しいなかまとともに」

「自分らしく過ごせるクラスづくり」など

例２

教材：「2020われら人間創造」

１週目：読書「豊かな高校生活を求めて」（Ｐ３～Ｐ16）

２週目：担任・副担任で個人面談

目標：①他者理解の醸成

②集団活動参画への支援

３週目：「社会参画」について深く考えさせる作文

例）「高校生活でがんばりたいこと」

「集団の中の自分」など

例３

教材：「2020われら人間創造」

１週目：読書「幸せな未来を目指して」（Ｐ97～Ｐ117）

２週目：担任・副担任で個人面談

目標：①意思決定の働きかけ

②課題克服への支援

３週目：「自己実現」について深く考えさせる作文

例）「10年後の自分」

「大人への準備」など

【人権教育】

（１）課題の提示

差別をなくす学習から、差別をなくす行動へ　～「人権を確かめあう日」を機に

（２）学習活動

〈第１週〉

課題１	毎月１１日の「人権を確かめあう日」を契機として、人権の今日的状況について考える。
学習活動	「人権を確かめあう日」を機に、「日本国憲法」や「世界人権宣言」を読み、今なお人権が保障されていない現状や課題について、新聞記事やネットニュースから探してみる。
教材 参考資料	「なかまとともに　高等学校」 ・世界人権宣言（P72～75） ・私たちの「日本国憲法」（P90～93）
	人権に関する県民意識調査（平成30年 奈良県） http://www.pref.nara.jp/49951.htm
	若者の人権意識調査（平成23年 奈良県） http://www.pref.nara.jp/10722.htm
	「人権を確かめあう日」 http://nara-tenichi.jp/publics/index/10/

〈教員による学習支援〉

新聞記事の切り抜きやネットニュースを持ち寄らせることで、身近にある人権について考える機会とさせる。

〈第２週〉

課題２	様々な人権問題について調べ、身近な人と意見を交わすことで、自分の考えを深める。
学習活動	同和問題、女性、高齢者、障害者、外国人、性的マイノリティなど、身のまわりにある様々な人権問題に関する資料を読んだり、インターネット等で調べたりしたことについて家族や友人等と話し合い、それらの問題と自分との関わりについて考える。
教材 参考資料	「なかまとともに　高等学校」 ・だれにとっても暮らしやすい社会に（P14～P19）【障害者】 ・生き方を問い続けて（P20～P25）【同和問題】 ・自分らしく生きる（P38～P41）【性的マイノリティ】
	「教職員のためのセクシャルマイノリティサポートブックVer.4」 http://www.jtu-nara.com/book.html

〈教員による学習支援〉

調べたり話し合ったりした内容について、疑問に思ったり、分からなかったりしたことについて、補足説明等をおこなう。

〈第３週〉

課題３	人権問題の解決をめざす人やその活動について知り、自分にできることを実践する。
学習活動	課題１・２の学習内容についてふり返り、200字コラムにまとめる。
教材 参考資料	「なかまとともに　高等学校」 ・小さな場所から（P80～P85） ・活動しよう！～キーワードは「人権」（P94～P97）
	「なかまとともに　高等学校」指導資料 http://www.e-net.nara.jp/ouen/index.cfm/12,0,81,198,html

〈事後の取組〉

一人一人の人権が保障される社会づくりに向け、自分にできることについて意見交換をする。